

慈眼寺たより

第17号

平成26年12月
春日井市下市場町
「慈眼寺」

電話 81-6801
編集 伊藤秀文

★唯今闘病中☆

伊藤清雄

雨の続いた九月の初め、母とお墓のお花を換えに出かけた。ここで偶然、住職に出会って癌の闘病記を書く事になってしまった。闘病記と言われても癌の手術は終わってしまったもの、完治した訳ではなく抗癌剤による治療は続いており、いつ再発してもおかしくない状態なのだ。そこで唯今闘病中を書かせて戴くことにした。

何となく胃がおかしい、と思ったのは半年位前の事だったが自覚する前から小さな癌は出来ていたと思う。つまり胃癌は痛くないのだ。何かおかしいので、春日井市の人間ドックに申し込んだのだが、満員で四ヶ月待ちとのこと。しばらく待つ事にしたが、どうも遅すぎた気がして、近くの胃腸科に行った。結果、癌であると言われ、紹介状を書くから今すぐに大きな病院に行くってくれとのこと。どこにするか決めて欲しいと言われたが心の整理が付かず、どうして

いのか分からない。家に帰り妻に相談したが妻にも良くは分からないう様だった。そこでハッと思いついたのが、知り合いにリンパ癌で余命宣告されたが、今も元気でほとんど完治している人が居ることだった。すぐに電話しどこの病院にするか相談した所、三つほど名前を出してくれた。JRで直ぐに行くことのできる名大病院に決めた。朝一番に紹介状を貰いに行き、その日の午前中に名大病院に行つた所、丁度診察の日だった。診察の後直ぐに検査が始まった。ステージの末期癌で余命六ヶ月かも知れないとの事。胃がんの大きさは直径十cmくらいで腫瘍マーカーが三千二百あった(腫瘍マーカーは血液検査で出る数値で、健康な人なら二桁以下、ひどい癌の人で二千くらいだという)。

最後には脳とか骨とか筋肉に転移していかないかPET検査までしたが、転移は無かった。結果手術が可能となり、余命六ヶ月は消えたが胃癌の浸潤が進んでおり五年生存率は十%くらいの手術で、胃と脾臓、脾臓、リンパ節をとる事になった。今は昔と違い手術の前にもどの抗癌剤が効くか(五種類位の抗癌剤がある)抗癌剤治療が行われる。医師の経験によりどれにするか決めてもらい二サイクルの抗癌剤治療が行われ、効かなければその後再度考える事になった。抗癌剤は二種類併用されるが、胃癌の抗癌剤は効き目が良くないので、癌の大きさが治療前と治療後で同じと認められれば効果ありと見なすとの事であった。治療は副作用が激しく大変である。強い方の薬を点滴治療した後は歩くのがやっとになってしまふ。副作用の一つに目が見えにくくなるのがあった。眼科にも行ったが、よく分からなかったが総合病院の良さで、薬の先生がそれに合う目薬を出して下さり直ぐに良くなった事もあった。またここで奇跡が起きてしまった。医師もびっくりであった。二サイクルの治療で癌の大きさが約四分の一も三千二百から百八十に激減した。このチャンスに手術してしま

《柳歌壇・俳壇》

●炎天下熱戦に沸く甲子園高校球児に活力貰う

●ありがとう支えてくれた五十年亡き妻偲び自分史を書く

今井正

●友人の自分史読めばこの人も吾とは違う荷を負うて来ぬ

た

●枝垂桜紅葉は大地に触れるまで百日紅今日出来る事明日にする

伊藤清雄

●稲刈りの匂いの残る道を行く

●土割って水仙の芽の不揃ひに

伊藤貴美子

かばね

●屍てふヨガのポーズへ冬日差

●鮎落ちて飛驒の稜線際立てり

●玉音盤抱きて眠る愛宕山

孝子

●いつの日か年を重ねて

米寿なり

折づるや大空高く

舞い上がり

ふた声み声唄いけり

千津

おうという事になった。抗癌剤だけで胃がんを完治させた前例がないからである。

切らなければどんな事になるか分からない。最悪ではそのまま閉じてしまうが、今回の手術は楽しみである。医師の説明があった。背中からの麻酔が始まり、その後の意識はない。

ICUに入れられ意識は戻ったが、朦朧としている。ああ、まだ生きてるんだ。眠って起きて眠って起きての感じだ。妻も面会時間になるまで来られない。手術は予定より二時間短く、六時間位であった。医師から予定より小さな手術で胃の四分の三と、結腸をとったと言われた。ひどい癌患者が順調に回復していく事は、医師に取っても嬉しいのだと思つた。一日経って病棟の治療室に移った。回診以外に主治医や副主治医の先生が一日一回は顔を出して下さり話も聞けるし顔を見ただけでも安心出来たのであった。看護師の方々も手厚い対応があり、ナーズコールをすれば直ぐに来てくれた。今は痛みを我慢しなくて良いので痛み止めを常に使い、安静にしていればさほど痛くはないが、動く痛い。しかし医師からは歩くように言われ病棟をよく歩いた。

点滴治療の後、お湯、一部粥、

二部粥と順々に全粥になるまで続くのだが、胃が無いので一日六度の食事なのに、食べられない日が続いた。突然いらいらし始めたのでナーズや医師にそのことを話したが原因は良く分からなかった。総合病院の良さが此処でも出て栄養指導の先生に聞く機会があった。炭水化物の摂取不足で、体の中に糖分が足らないので飴玉を舂めると良いと言われ、ブドウ糖を食べべたら治った。医師もその日薬と言っていたが、確かに手術の後は一昨日回復していくのが目に見えて分かる。痛みが少なくなるとか、足が速くなるとか良くなつていくのである。病院ではできる限りの事はしてくるが、病院が病気を治してくれる訳ではなくて、治療は続くが病気を治すのは自分自身だと思ひ知らされた。

こうして退院した。退院したが今も抗癌剤治療は続いている。癌の再発が多いためである。入院患者の半分以上は再発であった。他の病院から再発して名大病院へ来ている人が多かった。癌の治療は根比べである。自分を優先させ無理をしない様にして病気に勝つ努力はしている。妻には申し訳ないが、自分勝手になつてきた。焦つても仕方がない。根気だ。しかし良いことにも気付いた。彼の世行

きの優先権付き片道切符を手に入れたことだ。いつでも優先して彼の世に連れて行ってもらえる。癌になるまでは、寿命はどこか遠くにいて十年二十年と長く生きられるものと漠然と思つていた。今は寿命は自分のすぐ隣にいて、五箇所か一年先も分らないと考へ、思いついたことは直ぐに実行し先延ばししない様にしてはいるが、思いつめないで軽いのんびりと生きていこうと思つている。何しろ優先権付き片道切符を持つているんだから慌てることはない。のんびり行きましよう。

今回の経験では、初めに末期癌と診断されたときは絶望のどん底でした。それが、最初の検査で転移がないと言われた時、それに抗癌剤で癌が小さくなってしまった時には、天にも登る気持ちで嬉しかったです。本当に氏子をはじめ皆様のおかげと思ひました。

ところで癌は自分がおかしいと思ふときには、すでに進行してしまつていたので、検査で早期に見つけたほうがいいと思う。そして癌になつてしまつたら病院は選んだほうがいい。特に末期癌は病院により命が助かるかどうか決まつてしまう場合が多いということです。

平成二十七年年度年忌表

来年の年忌は次のとおりです。お早めにお申し込みください。

年忌	逝去年
一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和五十八年
三十七回忌	昭和五十四年
四十三回忌	昭和四十八年
四十七回忌	昭和四十四年
五十回忌	昭和四十一年

各戸別の年忌はホームページで見られます（過去帳閲覧）。

行事予定

- 二月十一日 大般若会
正午から詠讚歌奉詠
一時から法要 参拝者には健康饅頭がもらえます。
- 二月十五日 涅槃会
十時から法要と詠讚歌奉詠
- 四月八日 灌仏会
十時から法要と詠讚歌奉詠
甘茶を頂いてください。
- 八月十八日 お施餓鬼
棚経は八月十日くらいからです。詳しくは次号でご案内します。

☆愚直十七年★

四ツ谷三組 藤井健三

定年とほぼ時を同じくして、三十年來の家に亡くし、ダブルパンチで落ち込んでいた私に、活を入れるかの様に持ち込まれたのが、区画整理組合の議長職であった。

いやあ、町内会で司会をやった事はあるけれど、区画整理の事も何も知らない私にそんな大役はとも無理ですと、一度はお断りしたが、「何も知らない無色の人の方がむしろ適任じゃ。なまじ知識があると片寄った考え方をするから」と、さすがに知恵者の長老に丸め込まれ、少しは地域のお役に立てればいかと考え直し、お引き受けする事となった。

引き受けたからには、やるしかないし、やるからには恥ずかしくないようにしたいと思って取り組んできた。

推進母体の理事会が、提案者として案件を提出し、地権者の代表である「総代」が賛否を決めていく流れであるが、賛成してもらわなければ事業が前に進まないのが賛成を前提として会議は進められる。

会議は人を束縛する。人は束縛を嫌うので早く終わるのを望んでいる。しかし、かと云って質問や意見の全くない会議は、会議とは

云いづらく、何やら不気味でさえある。「何か質問はございませんか？」と聞いてから質疑を経て、賛否を取るまでの間合いが何とも云えず緊張するところで、大変難しかった。早すぎれば意図的と思われそうだし、間が開きすぎると作ったような質問が出て大いに困るのである。

十七年の間に総代の方々に何回挙手をお願いしたことか、私の人生の中で、大変意義深い十七年になりました。

それにしても四ツ谷は住みよい町になりました。買い物、食事、病院など歩いていける便利さは、地区が整備された結果の賜物です。私たちの次の世代に、この素晴らしい街を引き渡せる事を誇らしく思う今日このごろです。

四ツ谷地区が子々孫々永劫に栄える事を祈念して、乾杯！



御岳の噴火 潮見坂公園より

★説法 (修証義) ☆

住職 春日井浩道

修証義の四章は発願利生というテーマで、そこには四つの修行目標が書かれています。その第一は布施といつて、自分の力を人の為に使ってもらうことでした。

次に愛語という徳目があります。修証義には「愛語というのは衆生を見るにまず慈愛の心を発し、願愛の言語を發すなり」と書かれています。愛語というのは優しい言葉をかけなさいという意味です。

人間は他の動物と違って、巨大で複雑な社会を作ります。これは言葉があつて、初めてできることです。言葉が無ければ、せいぜいニホンザルのような、腕力にモノを言わせて皆さんをネジふせるくらいに社会しか成り立つことができません。ところが、現代の言葉は、単なる意思の伝達手段で、どのようにでも使われます。詐欺や、いじめの手段としても大きな効果を發揮することも出来るのです。

それをお経では、衆生（本当は生き物全てという意味ですが、実際にはすべての人々という意味で結構です）に対しては、慈しみの心でもって優しい言葉をかけましょうと言っています。でも、本当のところは、慈しみの心は後でもいいのです。ともかく、優しい言

葉を掛け合おう。そうすれば人間関係の角が取れて、慈しみの心が湧いてくるのではないかと。ということだと思われれます。形を整えれば心は自然とついてくるというのも道元様の教えであります。優しい言葉をかけることにより、敵も態度をやわらげ、国どうしの戦争も終わりになることだって十分にあり得ます。ここで思い起こすのは日本人を多く拉致した何とか言う国のことです。まともに考えれば同情の余地もない国ですが、うんと優しい言葉をかけ、援助も豊富にしてやれば、国民に自ずと世界の情報が入り、体制そのものが維持できなくなつて、崩壊してしまふのではないかと思っています。どうでしょう。そうすれば、日本人がはかして直接「めぐみさんたち」を探すことができるのです。今、かの国の支配者たちは自分の地位を守るのに必死なのです。外から圧力をかけても絶対に軟化はしないでしょう。かの国が崩壊して日本の安全は幾分なりとも向上すれば一石二鳥ではありませんか。お経の文句にも「愛語よく回天の力あることを学すべきなり」と言っています。優しい言葉をかけることによって、世の中の運命が変わるほどの力を發揮することがあるということでしょう。言葉と

というのは、使いようによっては「豚を木に登らせる」こともできるのです。くれぐれも注意しなくてはならないのは「俺の方がエライから教えてやる」「お前の方が馬鹿だ」という態度を見せないことです。エライとかなんとかいうことは、会社にいるときに重要な決定に参加したかどうかであって、人間の価値には何ら関係しません。上から目線では肝心の優しい言葉も十分に効力が発揮できないのです。いろいろ気を使うことは自分にも幾分かはストレスになるものですが、それは巨大社会ではある程度仕方がないことだと思います。

お仏膳の受付をついでいます

平成二十七年のお仏膳の受付をしています。今までどおり一年一膳あたり千五百円です。

お供えのお菓子は、お下がりとしてお持ち帰りください。

来年もよろしく 願ひします

檀方総代

伊藤辰男

伊藤久幸

伊藤秀文

伊藤正廣

大野和義

大野悟

木村廣孝

春日井浩道

住職

☆知ることは幸福か★

先日、アメリカの女優が、自分の遺伝子から、乳ガンになるおそれ強いということ、健全な乳房を切ってしまったというニュースがありました。そういう遺伝子関係の技術の進歩は目覚ましいものがあり、自分が今後かかりやすい病気やガンなどが、わかってしまうそうです。でも、そういうことが分かることによって人間は幸せになったと言えるのでしょうか。今の宇宙飛行士は知りませんが、昔、南極観測隊に行くような人は、事前に盲腸などを切っていたそうです。向こうでの越冬中に、盲腸になると、大変だったようです。から仕方のないことかもしれませんが、先の女優さんの話と似ていますが、どうでしょうか。一般に、未知の事を知るというのは、とても楽しいことです。宇宙の果てのことからその始まり、何十億年先の宇宙滅亡など、日常とはまるで関係ないようなことにも、人間は莫大な金を払って研究しています。海の底には宝があるかも知れませんが、まあいいのですが、遠い宇宙の果てには何があっても人間世界には関係のないことです。しかしそれでも知りたがる。これは人間だけのことです。考えてみれば、ほかの動物は何

も知りません。地球が丸いことはおろか、空気があること、自分が死ぬ存在であることなど、すべて関係ないので。ただ目の前の世界に対応しながら生きていくだけです。おそらく悩みなど無いのでしよう。腹が減れば食べ物を探し、危険を感じれば逃げる、だけの姿かもしれないと思うことがあります。人間は多く知りすぎた。もっとも文明はそれによって進歩したのでしようが、一体これは人類に幸福をもたらしたのかと。いずれにしろ後戻りはできません。

★編集後記☆

スイスでは自殺の幫助を法律が認めているという。というよりも自殺の幫助を処罰しないだけの話であろう。という事情があるため、スイスには自殺の幫助団体があるのだという。ただ要件は厳しく、自分の意思で死を願うこと、親族も全員の同意が必要だということのため死ぬ事の意味も分からない幼児や、精神病患者には認められない。徐々に認知症が進むアルツハイマーの患者などは、精神状態が健全なときに意思表示をすればいいのだという。失恋や生活困る自殺には幫助はしないようである。多くは不治の病気や老化に

よって動けない人のようだ。会員制で終身会費は約十万円、三年以上の後に死ぬ場合はそれだけだが、特別に早く往きたい人には六十万円位かかるのだそう。認められた自殺希望者は、調査されたジュースを自分で飲んで眠りにつきそのまま息を引き取るのだという。外国人向けの団体もあって、もう少し費用が高いそうである。二〇〇九年にはイギリスの有名な指揮者夫妻がこの制度を利用して話題になったようだ。

医療が進み高齢化社会になっていく一方で、いろんな病気のため何年も寝たきりの生活を余儀なくされる人もいる。また動物の話になるが、彼らは病気になると隠れてしまいます。おそらく体力の消耗した状態で敵に襲われたら困るからでしょう。場合によってはそのまま死ぬのだから、考えさせられる問題である。それでは良いお年をお迎えください。

「慈眼寺たより」第十七号

平成二十六年十二月十日発行

ホームページ

↑

<http://www.ma.ccnw.ne.jp/jigenji/>

↑

慈眼寺たより

第17号

平成26年12月
春日井市下市場町
「慈眼寺」

電話 81-6801
編集 伊藤秀文

★唯今闘病中☆

伊藤清雄

雨の続いた九月の初め、母とお墓のお花を換えに出かけた。ここで偶然、住職に出会って癌の闘病記を書く事になってしまった。闘病記と言われても癌の手術は終わってしまったもの、完治した訳ではなく、抗癌剤による治療は続いており、いつ再発してもおかしくない状態なのだ。そこで唯今闘病中を書かせて戴くことにした。

何となく胃がおかしい、と思ったのは半年位前の事だったが自覚する前から小さな癌は出来ていたと思う。つまり胃癌は痛くないのだ。何かおかしいので、春日井市の人間ドックに申し込んだのだが、満員で四ヶ月待ちとのこと。しばらく待つ事にしたが、どうも遅すぎた気がして、近くの胃腸科に行った。結果、癌であると言われ、紹介状を書くから今すぐに大きな病院に行くってくれとのこと。どこにするか決めて欲しいと言われたが心の整理が付かず、どうして

いのか分からない。家に帰り妻に相談したが妻にも良くは分からない様だった。そこでハッと思いついたのが、知り合いにリンパ癌で余命宣告されたが、今も元気でほとんど完治している人が居ることだった。すぐに電話しどこの病院にするか相談した所、三つほど名前を出してくれた。JRで直ぐに行くことのできる名大病院に決めた。朝一番に紹介状を貰いに行き、その日の午前中に名大病院に行つた所、丁度診察の日だった。診察の後直ぐに検査が始まった。ステージの末期癌で余命六ヶ月かも知れないとの事。胃がんの大きさは直径十cmくらいで腫瘍マーカーが三千二百あった(腫瘍マーカーは血液検査で出る数値で、健康な人なら二桁以下、ひどい癌の人で二千くらいだという)。

最後には脳とか骨とか筋肉に転移していかないかPET検査までしたが、転移は無かった。結果手術が可能となり、余命六ヶ月は消えたが胃癌の浸潤が進んでおり五年生存率は十%くらいの手術で、胃と脾臓、脾臓、リンパ節をとる事になった。今は昔と違い手術の前にもどの抗癌剤が効くか(五種類位の抗癌剤がある)抗癌剤治療が行われる。医師の経験によりどれにするか決めてもらい二サイクルの抗癌剤治療が行われ、効かなければその後再度考える事になった。抗癌剤は二種類併用されるが、胃癌の抗癌剤は効き目が良くないので、癌の大きさが治療前と治療後で同じと認められれば効果ありと見なすとの事であった。治療は副作用が激しく大変である。強い方の薬を点滴治療した後は歩くのがやっとになってしまふ。副作用の一つに目が見えにくくなるのがあった。眼科にも行ったが、よく分からなかったが総合病院の良さで、薬の先生がそれに合う目薬を出して下さり直ぐに良くなった事もあった。またここで奇跡が起きてしまった。医師もびっくりであった。二サイクルの治療で癌の大きさが約四分の一も三千二百から百八十に激減した。このチャンスに手術してしま

《柳歌壇・俳壇》

●炎天下熱戦に沸く甲子園高校球児に活力貰う

●ありがとう支えてくれた五十年亡き妻偲び自分史を書く

今井正

●友人の自分史読めばこの人も吾とは違う荷を負うて来ぬ

た

●枝垂桜紅葉は大地に触れるまで百日紅今日出来る事明日にする

伊藤清雄

●稲刈りの匂いの残る道を行く

●土割って水仙の芽の不揃ひに

伊藤貴美子

かばね

●屍てふヨガのポーズ(冬日差)

●鮎落ちて飛驒の稜線際立てり

●玉音盤抱きて眠る愛宕山

孝子

●いつの日か年を重ねて

米寿なり

折づるや大空高く

舞い上がり

ふた声み声唄いけり

千津

おうという事になった。抗癌剤だけで胃がんを完治させた前例がないからである。

切らなければどんな事になるか分からない。最悪ではそのまま閉じてしまうが、今回の手術は楽しみである。医師の説明があった。背中からの麻酔が始まり、その後の意識はない。

ICUに入れられ意識は戻ったが、朦朧としている。ああ、まだ生きてるんだ。眠って起きて眠って起きての感じだ。妻も面会時間になるまで来られない。手術は予定より二時間短く、六時間位であった。医師から予定より小さな手術で胃の四分の三と、結腸をとったと言われた。ひどい癌患者が順調に回復していく事は、医師に取っても嬉しいのだと思つた。一日経って病棟の治療室に移った。回診以外に主治医や副主治医の先生が一日一回は顔を出して下さり話も聞けるし顔を見ただけでも安心出来たのであった。看護師の方々も手厚い対応があり、ナーズコールをすれば直ぐに来てくれた。今は痛みを我慢しなくて良いので痛み止めを常に使い、安静にしていればさほど痛くはないが、動く痛い。しかし医師からは歩くように言われ病棟をよく歩いた。

点滴治療の後、お湯、一部粥、

二部粥と順々に全粥になるまで続くのだが、胃が無いので一日六度の食事なのに、食べられない日が続いた。突然いらいらし始めたのでナーズや医師にそのことを話したが原因は良く分からなかった。総合病院の良さが此処でも出て栄養指導の先生に聞く機会があった。炭水化物の摂取不足で、体の中に糖分が足らないので飴玉を舂めると良いと言われ、ブドウ糖を食べたら治った。医師もその日薬と言っていたが、確かに手術の後は一昨日回復していくのが目に見えて分かる。痛みが少なくなるとか、足が速くなるとか良くなつていくのである。病院ではできる限りの事はしてくるが、病院が病気を治してくれる訳ではなくて、治療は続くが病気を治すのは自分自身だと思ひ知らされた。

こうして退院した。退院したが今も抗癌剤治療は続いている。癌の再発が多いためである。入院患者の半分以上は再発であった。他の病院から再発して名大病院へ来ている人が多かった。癌の治療は根比べである。自分を優先させ無理をしない様にして病気に勝つ努力はしている。妻には申し訳ないが、自分勝手になつてきた。焦つても仕方がない。根気だ。しかし良いことにも気付いた。彼の世行

きの優先権付き片道切符を手に入れたことだ。いつでも優先して彼の世に連れて行ってもらえる。癌になるまでは、寿命はどこか遠くにいて十年二十年と長く生きられるものと漠然と思つていた。今は寿命は自分のすぐ隣にいて、五、六、七、八、九、十年と分らないと考へ、思いついたことは直ぐに実行し先延ばししない様にしてはいるが、思いつめないで軽くのんびりと生きていこうと思つている。何しろ優先権付き片道切符を持つているんだから慌てることはない。のんびり行きましよう。

今回の経験では、初めに末期癌と診断されたときは絶望のどん底でした。それが、最初の検査で転移がないと言われた時、それに抗癌剤で癌が小さくなつてしまった時には、天にも登る気持ちで嬉しかったです。本当に氏子をはじめ皆様のおかげと思ひました。

ところで癌は自分がおかしいと思ふときには、すでに進行してしまつていたので、検査で早期に見つけたほうがいいと思う。そして癌になつてしまつたら病院は選んだほうがいい。特に末期癌は病院により命が助かるかどうか決まつてしまう場合が多いということです。

平成二十七年年度年忌表

来年の年忌は次のとおりです。お早めにお申し込みください。

年忌	逝去年
一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和五十八年
三十七回忌	昭和五十四年
四十三回忌	昭和四十八年
四十七回忌	昭和四十四年
五十回忌	昭和四十一年

各戸別の年忌はホームページで見られます（過去帳閲覧）。

行事予定

- 二月十一日 大般若会
正午から詠讚歌奉詠
一時から法要 参拝者には健康饅頭がもらえます。
- 二月十五日 涅槃会
十時から法要と詠讚歌奉詠
- 四月八日 灌仏会
十時から法要と詠讚歌奉詠
甘茶を頂いてください。
- 八月十八日 お施餓鬼
棚経は八月十日くらいからです。詳しくは次号でご案内します。

☆愚直十七年★

四ツ谷三組 藤井健三

定年とほぼ時を同じくして、三十年來の家に亡くし、ダブルパンチで落ち込んでいた私に、活を入れるかの様に持ち込まれたのが、区画整理組合の議長職であった。

いやあ、町内会で司会をやった事はあるけれど、区画整理の事も何も知らない私にそんな大役はとも無理ですと、一度はお断りしたが、「何も知らない無色の人の方がむしろ適任じゃ。なまじ知識があると片寄った考え方をするから」と、さすがに知恵者の長老に丸め込まれ、少しは地域のお役に立てればいかと考え直し、お引き受けする事となった。

引き受けたからには、やるしかないし、やるからには恥ずかしくないようにしたいと思って取り組んできた。

推進母体の理事会が、提案者として案件を提出し、地権者の代表である「総代」が賛否を決めていく流れであるが、賛成してもらわなければ事業が前に進まないのが賛成を前提として会議は進められる。

会議は人を束縛する。人は束縛を嫌うので早く終わるのを望んでいる。しかし、かと云って質問や意見の全くない会議は、会議とは

云いづらく、何やら不気味でさえある。「何か質問はございませんか？」と聞いてから質疑を経て、賛否を取るまでの間合いが何とも云えず緊張するところで、大変難しかった。早すぎれば意図的と思われそうだし、間が開きすぎると作ったような質問が出て大いに困るのである。

十七年の間に総代の方々に何回挙手をお願いしたことか、私の人生の中で、大変意義深い十七年になりました。

それにしても四ツ谷は住みよい町になりました。買い物、食事、病院など歩いていける便利さは、地区が整備された結果の賜物です。私たちの次の世代に、この素晴らしい街を引き渡せる事を誇らしく思う今日このごろです。

四ツ谷地区が子々孫々永劫に栄える事を祈念して、乾杯！



御岳の噴火 潮見坂公園より

★説法 (修証義) ☆

住職 春日井浩道

修証義の四章は発願利生というテーマで、そこには四つの修行目標が書かれています。その第一は布施といつて、自分の力を人の為に使ってもらうことでした。

次に愛語という徳目があります。修証義には「愛語というは衆生を見るにまず慈愛の心を発こし、願愛の言語を發すなり」と書かれています。愛語というのは優しい言葉をかけなさいという意味です。

人間は他の動物と違って、巨大で複雑な社会を作ります。これは言葉があつて、初めてできることです。言葉が無ければ、せいぜいニホンザルのような、腕力にモノを言わせて皆さんをネジふせるくらいに社会しか成り立つことができません。ところが、現代の言葉は、単なる意思の伝達手段で、どのようにでも使われます。詐欺や、いじめの手段としても大きな効果を發揮することも出来るのです。

それをお経では、衆生（本当は生き物全てという意味ですが、実際にはすべての人々という意味で結構です）に対しては、慈しみの心でもって優しい言葉をかけましょうと言っています。でも、本当のところは、慈しみの心は後でもいいのです。ともかく、優しい言

葉を掛け合おう。そうすれば人間関係の角が取れて、慈しみの心が湧いてくるのではないかと。ということだと思われれます。形を整えれば心は自然とついてくるというのも道元様の教えであります。優しい言葉をかけることにより、敵も態度をやわらげ、国どうしの戦争も終わりになることだって十分にあり得ます。ここで思い起こすのは日本人を多く拉致した何とか言う国のことです。まともに考えれば同情の余地もない国ですが、うんと優しい言葉をかけ、援助も豊富にしてやれば、国民に自ずと世界の情報が入り、体制そのものが維持できなくなつて、崩壊してしまふのではないかと思っています。どうでしょう。そうすれば、日本人がはかして直接「めぐみさんたち」を探すことができるのです。

今、かの国の支配者たちは自分の地位を守るのに必死なのです。外から圧力をかけても絶対に軟化はしないでしょう。かの国が崩壊して日本の安全は幾分なりとも向上すれば一石二鳥ではありませぬか。お経の文句にも「愛語よく回天の力あることを学すべきなり」と言っています。優しい言葉をかけることによって、世の中の運命が変わるほどの力を發揮することがあるということでしょう。言葉と

というのは、使いようによっては「豚を木に登らせる」こともできるのです。くれぐれも注意しなくてはならないのは「俺の方がエライから教えてやる」「お前の方が馬鹿だ」という態度を見せないことです。エライとかなんとかいうことは、会社にいるときに重要な決定に参加したかどうかであって、人間の価値には何ら関係しません。上から目線では肝心の優しい言葉も十分に効力が発揮できないのです。いろいろ気を使うことは自分にも幾分かはストレスになるものですが、それは巨大社会ではある程度仕方がないことだと思います。

お仏膳の受付をついでいます

平成二十七年のお仏膳の受付をしています。今までどおり一年一膳あたり千五百円です。

お供えのお菓子は、お下がりとしてお持ち帰りください。

来年もよろしく 願ひします

檀方総代

伊藤辰男

伊藤久幸

伊藤秀文

伊藤正廣

大野和義

大野悟

木村廣孝

春日井浩道

住職

☆知ることは幸福か★

先日、アメリカの女優が、自分の遺伝子から、乳ガンになるおそれ強いということ、健全な乳房を切ってしまったというニュースがありました。そういう遺伝子関係の技術の進歩は目覚ましいものがあり、自分が今後かかりやすい病気やガンなどが、わかってしまうそうです。でも、そういうことが分かることによって人間は幸せになったと言えるのでしょうか。今の宇宙飛行士は知りませんが、昔、南極観測隊に行くような人は、事前に盲腸などを切っていたそうです。向こうでの越冬中に、盲腸になると、大変だったようです。から仕方のないことかもしれませんが、先の女優さんの話と似ていますが、どうでしょうか。一般に、未知の事を知るというのは、とても楽しいことです。宇宙の果てのことからその始まり、何十億年先の宇宙滅亡など、日常とはまるで関係ないようなことにも、人間は莫大な金を払って研究しています。海の底には宝があるかも知れませんが、まあいいのですが、遠い宇宙の果てには何があっても人間世界には関係のないことです。しかしそれでも知りたがる。これは人間だけのことです。考えてみれば、ほかの動物は何

も知りません。地球が丸いことはおろか、空気があること、自分が死ぬ存在であることなど、すべて関係ないので。ただ目の前の世界に対応しながら生きていくだけです。おそらく悩みなど無いのでしよう。腹が減れば食べ物を探し、危険を感じれば逃げる、だけの姿かもしれないと思うことがあります。人間は多く知りすぎた。もっとも文明はそれによって進歩したのでしようが、一体これは人類に幸福をもたらしたのかと。いずれにしろ後戻りはできません。

★編集後記☆

スイスでは自殺の幫助を法律が認めているという。というよりも自殺の幫助を処罰しないだけの話であろうが。という事情があるため、スイスには自殺の幫助団体があるのだという。ただ要件は厳しく、自分の意思で死を願うこと、親族も全員の同意が必要だということのため死ぬ事の意味も分からない幼児や、精神病患者には認められない。徐々に認知症が進むアルツハイマーの患者などは、精神状態が健全なときに意思表示をすればいいのだという。失恋や生活困る自殺には幫助はしないようである。多くは不治の病気や老化に

よって動けない人のようだ。会員制で終身会費は約十万円、三年以上の後に死ぬ場合はそれだけだが、特別に早く往きたい人には六十万円位かかるのだそう。認められた自殺希望者は、調査されたジュースを自分で飲んで眠りにつきそのまま息を引き取るのだという。外国人向けの団体もあって、もう少し費用が高いそうである。二〇〇九年にはイギリスの有名な指揮者夫妻がこの制度を利用して話題になったようだ。

医療が進み高齢化社会になっていく一方で、いろんな病気のため何年も寝たきりの生活を余儀なくされる人もいる。また動物の話になるが、彼らは病気になると隠れてしまいます。おそらく体力の消耗した状態で敵に襲われたら困るからでしょう。場合によってはそのまま死ぬのだから、考えさせられる問題である。それでは良いお年をお迎えください。

「慈眼寺たより」第十七号

平成二十六年十二月十日発行

ホームページ

↑

<http://www.ma.ccnw.ne.jp/jigenji/>

↑